

～ここにも遺跡～

田んぼの下から お供えもの？

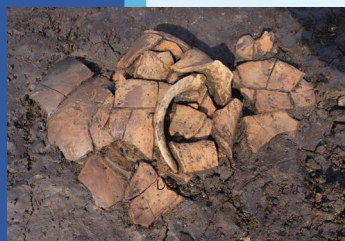
高畑遺跡 (博多区)

令和3年2月、外環状
線沿いの高畑遺跡では一面
に広がる5世紀から6世紀の土
器が出土しました。

九州管区警察学校の近くだよ



出土した土器群



つづれた壺

最初は小さな破片がぎっしりと広がっていたのですが、掘り進めるうちに壺、甕、高坏など一つ一つがつづれた状態で現れました。何かを入れて置いていたようです。コメなどの作物、木の実や野鳥などの獲物、または水、酒等々？中身は残っていませんが、まつり、儀式などでお供えした跡ではないかと考えられます。

近くでは当時の人々が暮らした住居の跡が見つかっています。

さらに掘り進めると弥生時代の土器や、木製の鋤(スコップ)なども出土しました。



弥生時代の鋤(下)と現代のスコップ

→ 8月・9月のイベント情報

8月

4日・5日 イベント「チャレンジ考古学」

場所：福岡市博物館 1階グランドホール
(早良区百道浜3-1-1)

遺跡や発掘にかかわるクイズやパズルに挑戦！

7日 紅葉八幡宮獅子まつり(市登録無形民俗文化財)

場所：紅葉八幡宮(早良区高取1)

16日 西浦のかずら引き(市指定無形民俗文化財)

場所：西浦漁港(西区大字西浦)

★ 21日 埋蔵文化財センター 収蔵庫暗闇ツアー

収蔵庫を
探検できるよ！

9月

★ 11日 第4回埋蔵文化財センター考古学講座

「土器のかけらから解き明かすいしえの食と調理」

講師：庄田 慎矢氏(独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所)

【★のイベントについて】

会場：福岡市埋蔵文化財センター(博多区井相田2-1-94)

※ **予約が必要です！**

詳細は下記ホームページをご確認ください。



福岡市埋蔵文化財センター ホームページ

<https://www.city.fukuoka.lg.jp/maibun/html/>

福岡市経済観光文化局文化財活用部

住所：福岡市中央区天神1-8-1

TEL: 092-711-4666 FAX: 092-733-5537

文化財の保存・管理・活用に関すること

文化財活用課 TEL: 092-711-4666

史跡の整備・活用に関すること

史跡整備活用課 TEL: 092-711-4784

埋蔵文化財の発掘調査・手続きに関すること

埋蔵文化財課 TEL: 092-711-4667

埋蔵文化財の収蔵・保管・分析に関すること

埋蔵文化財センター TEL: 092-571-2921

ホームページ 福岡市の文化財

<https://bunkazai.city.fukuoka.lg.jp/>

Facebook「福岡市の文化財」でも情報発信中！



Vol.34 2021年8月

～博多区吉塚 明光寺本堂・霊屋・禅堂～

国登録有形文化財

登録へ



明光寺境内の様子

博多区吉塚三丁目
に所在する明光寺の
本堂ほか2棟の建物
が、国の有形文化財
に登録されます。



本堂と霊堂は、伝統的な様式を鉄筋コンクリート造で再現した初期の寺院建築として、高い歴史的価値があると評価されました。



また、火災を免れた禅堂は江戸後期の木造建築として貴重です。

火災焼失後、火に強い建物として、ともにRC造で再建されました。

上：本堂(大正13年築)
下：霊屋(大正15年築)



禅堂(江戸後期築)

文化財の登録制度は、失われていく文化財を活用しながらもついでにつくられました。指定よりも規制がゆるやかであることが特徴です。

禅堂は江戸後期に建てられ、明治末頃移築されました。

～文化財を守る地域の活動を紹介します～

今津校区の地元有志が 元寇防塁記念碑の修復を目指して 活動しています。

設計は、東京帝国大学
(現東京大学) 教授
伊東忠太博士。
碑の上部には、博士がよく用いた
ハートマークのモチーフが！



「元寇記念碑」
(西区今津1565-4)

記念碑は建立から約100年経過し、福岡西方沖地震などの影響もあり、傷みが目立つようになってきました。そこで、地元有志が「元寇記念碑保存委員会」を立ち上げ、寄付を集めて修復を目指し活動しています。



委員長 古藤 英俊氏

活動についてご賛同いただける方は、ぜひご協力ください！

寄付については、こちらをどうぞ！
今津校区自治協議会webサイト



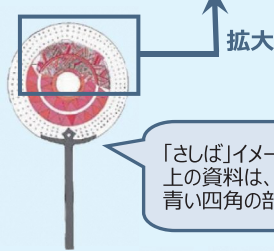
<http://imazu.fukushimura.info/genko.html>

～埋蔵文化財センターだより～

古代人の美的センス－有文木製品－



有文木製品
西区 元岡・桑原遺跡群出土
(全長22cm×身幅7.7cm)



「さしば」イメージ上の資料は、青い四角の部分。



有文木製品の文様

今回は、九州大学伊都キャンパス用地の発掘調査で出土した木製品を紹介します。この木製品は、弥生時代から古墳時代につくられた道具で、元来は円形の板であったと考えられています。全体に複雑な文様が彫られており、顔料で赤く塗られています。何に使われたのかについてはよくわかっておらず、貴人の顔にかざして顔を覆う道具（左図「さしば」）や盾、村の入口を示す標識などの説があります。木でできた出土品は何もしないと乾燥して変形するため、昨年度、トレハロース(人工糖)の溶液に漬け込んで強化する処理を行い、現在、センターのエントランスで展示しています。

出土品を良好な状態で後世に伝えるための科学的処理等については、現在開催中の企画展「第二の発掘－考古学×自然科学＝新発見?！」で詳しく紹介しています。ぜひご覧ください！

広報誌「歴史の風」のバックナンバーが まとめて読めるようになりました。

webサイト「福岡市の文化財」に、これまで発行した「歴史の風」33号分を集めたページを開設しました。
<https://bunkazai.city.fukuoka.lg.jp/rekishinokaze/>



閲覧用と印刷用のpdfを公開しています。過去の「歴史の風」も、ぜひご覧ください。



こちらをクリック！



2016年4月の創刊号から
閲覧できます。

また、webサイト「福岡市の文化財」では、文化財めぐりのルートや見学できる史跡など、さまざまな文化財の情報を紹介しています。市内の文化財について、キーワード検索して情報を得ることもできます。のぞいてみてください！

SNSでは
最新情報も発信中！



「福岡市の文化財」 Instagram
「福岡市の文化財」 webサイト